
ありがとう

n a o

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありがとう

【コード】

N1824D

【作者名】

nao

【あらすじ】

実話になんとなく基づいています。ケンタという男の子との出会いで変わっていった自分。

(前書き)

高校三年です。素人まるだしの文章ですがよかったら目を通してください。コメントまっています。中傷お断りします。

自分以外の他の誰かが羨ましくて仕方がない。

とにかくキラキラしてみえてしょうがない。

自分は何をやってもいまいち。

特技なんて特にない。

もし生まれ変わったらあの子がいい！

あの子になりたい。

もしあの子が私だったら世界変わっちゃうんだろうな・・・

いつもいつもそんなこと考えてた。

恋愛をしては人と比べ、

とにかく幸せそうな人を見ると急に焦る。

そして自分より悲しんでる人を見たらなんとなく安心する。。。

そんな自分自身に気づいていてもわかっただけでもどうしようもなかった。

そんな時ある人と出会った。

10年ぶりに幼なじみと偶然会った。

ケンタという男の子だ。

それからなんとなく連絡先を交換し、メールをするようになった。

地元からこつちの高校に入学したため引越してきたという。

その幼なじみとは小さい頃から仲がよく近所の公園で一緒に自転車の練習もしていた。

気づけばアルバムに映っている私の隣にはいつもケンタがいた。

もちろんそんなのおもいつきり忘れていた。

ただ、たまたまばったりあって無理矢理思い出したただけだった。

あの頃は私の方が背が高くてすっかりしてお姉さんの存在だったと思っていたけど、あまりに成長していたのでびっくりした。

そりゃあ10年も経てば成長するよなって納得。

それからケンタとはいつのまにか一緒にいるようになった。

その時はそこまで好きという訳でもなかった。

でもケンタはわたしと正反対な性格で、素直で可愛い性格だった。

わたしは好きなものを素直にいえるケンタに羨ましくもあり、嫉妬した。

そして知らないうちに心の中にはケンタがいた。

喧嘩したときは決まっつてと言っていていいほどケンタが折れてくれて優しく頭を撫でてくれた。

わたしはそれが心地よく甘えてた。

その頃わたしの両親は離婚するしななくてもめていた。

まあそんなの日常茶飯事で慣れていた。

わたしが小さい頃から喧嘩ばかりだった。

家に帰ると親の喧嘩しか聞こえてこない。

そのうち家に帰らないことはあたりまえになっていた。

どうしようもなく寂しい時は誰でもいいからとなりで寝てほしかった。

誰かにそばにいてほしかった。

いろんな人と寝た。

それが偽りの愛でもなんでもよかった。

ただ一人だとおしつぶされそうな感覚になる。この世でたったひとりぼっちなかんじ。

父の転勤が多く友達なんて一人もいなかった。

できたおおもえばすぐまた次ぎの学校へ。

そのうちに友達ができないのではなく作ろうと思わなくなった。

ひとり寒いところを歩いてた。

そんな時、ケンタの暖かさが新鮮だった。

今までに感じたことのない安らぎ。

それから数ヶ月して両親が離婚することになった。

わたしは最初強気だったけどだんだん自然に涙するようになった。

なんでだろう。

お父さんのことあんな憎んでたじゃないか。

もう二人の間に愛はないとわかってはいるはずなのに泣いている自分がいた。

その時、となりにはやっぱりケンタがいた。

わたしが泣いているときそっと抱きしめてくれた。

わたしのリカちゃん人形のパンツめくりをしてはニヤニヤしていた
幼い頃のケンタがとても頼もしかった。

ケンタはわたしの過去を全て許し、辛かったね、大丈夫だよ、てゆ
つてくれてるみたいに優しくずっと抱きしめていてくれた。

それから、わたしはお母さんとケンタの3人で引越した。

それからはずっとケンタと過ごした。

でも街がクリスマスを意識し始めた頃突然、ケンタは逝ってしまった。

わたしと待ち合わせ場所に急ぐ途中、前方不注意の車にへられたとのこと。

わたしは最後のケンタの顔を見ても信じる事ができなかった。

ケンタのばか、ばかばかばか・・・

なんでそんなに急いでたの

なんでわたしを一人にするの

ケンタいないとわたしなんにもないよ。

いつもみたいに昔と変わらないあの笑顔でわたしの頭をポンっとしてほしかった。

けんた・・・ケンタにいろんなものもらったのにわたしまだケンタになにもしてあげてないよ・・・

まだ好きな気持ちを素直に好きって言ってないよ・・・

お願いだから戻ってきてよ。

もうすぐ怒ったり泣いたりして困らせたりしないから。

お願い……。

わたしは昔の頃に

朝起きて、いやいやながらも目をこすりながらカーテンを開ける意味さえもうなかつた。

ねえ、なんでケンタをつれていったのですか。

ケンタじゃなくてもそこらへんの死刑囚や年老いた老人でいいじゃないか。

けんたはまだ18だよ……

けんた……ごめんね。

わたしに会わなかつたらいまごろどこかで笑っていたんでしょ？

それから数年後、全ては時間が解決するというけれど

意外にそんなもんだった。

ケンタのことは今でも大切。なにも忘れてない。

わたしが泣いてるとき、ケンタが、わたしのそばで

がんばれ、いきろっ

ていつてくれてるきがする。

あの夜と同じように

もう大丈夫だよって。

都合のいい考え方がたかもしれないけど
こんな風に素直に思えるようになったのはやっぱりケンタのおかげ
で。

9

わたしはいま、まだ相変わらず臆病で弱いけれど賢明に青い空の下
を歩いていきます。

けんた・・・

ありがとう。

思い出だけがわたしの中で疼いている。

わたしは昔の頃に

朝起きて、いやいやながらも目をこすりながらカーテンを開ける意味さえもうなかつた。

ねえ、なんでケンタをつれていったのですか。

ケンタじゃなくてもそこらへんの死刑囚や年老いた老人でいいじゃないか。

けんたはまだ18だよ・・・

けんた・・・ごめんね。

わたしに会わなかつたらいまころどこかで笑っていたんでしょ？

それから数年後、全ては時間が解決するというけれど

意外にそんなもんだった。

ケンタのことは今でも大切。なにも忘れてない。

わたしが泣いてるとき、ケンタが、わたしのそばで

がんばれ、いきろっ

ていつてくれるきがする。

あの夜と同じように

もう大丈夫だよって。

都合のいい考え方かたかもしれないけど
こんな風に素直に思えるようになったのはやっぱりケンタのおかげ
で。

わたしはいま、まだ相変わらず臆病で弱いけれど賢明に青い空の下
を歩いていきます。

けんた・・・

ありがとう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1824d/>

ありがとう

2010年10月11日01時23分発行